

| |
|--|
| 1 学校教育目標 「心豊かに 生き生きと学ぶ 巨勢っ子」の育成 —「本気 元気 根気」を合い言葉に活動する子ども育成— |
|--|

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

| |
|---|
| 2 学校経営ビジョン —子どもとともに歩む学校づくり— 子どもの心に寄り添い、「子どもが主役」の教育をめざす。 (1) 子どもの居場所のある学校づくり (2) 温かい心をもつ子どもの育成 (3) 教師と子どもの心がかよい合う学校づくり (4) 保護者や地域の人と一緒に子どもを育てる。 |
|---|

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む ● 絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

| | |
|--|---|
| 3 本年度の重点目標 学校と家庭・、地域との信頼関係を基盤に、けじめのある明るい児童を育成する。 1 「早寝、早起き、朝ご飯、8時だよ・全員集合」を合い言葉に、「健康チェックカード」や「学習の手引き」の徹底 2 毎週金曜日のスキルタイムによる基本的な計算技能の向上 3 城東校区地域教育推進プロジェクトの発足・実践による「人・もの・こと」の活用 | 4 前年度の成果と課題 ・ 縦割り活動の内容を改善し、確実に実施することで、1年生から6年生までの絆が強まった。 ・ 個別支援体制の整備が進んだ。さらなる改善とを図り、明るく静かな学校の実現に努める。 ・ 読解力を育成するために、読書の機会を充実させる ・ 自己肯定感は、友だちへの言葉かけから始まると考え、挨拶と言葉遣いの指導に努める。 |
|--|---|

絞り込んだ重点目標の成果や課題を具体的に評価するためには、どのような項目や指標を盛り込むべきかを考える

| 5 総括表 | | | | | | | |
|-------|-----------|---|--|---|----------------------|--|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 評価及びその理由 | 評価担当者 | 具体的方策 | 成果と課題 |
| 学校運営 | 学校経営方針 | 本年度の重点目標の周知 | ・教職員、児童、保護者に周知する。認知度については、88パーセント以上周知召させる。 | C ・児童の周知率が85%、保護者が83%と目標値に届かなかった。学校目標の文言提示が1学期に集中してしまったことが考えられる。 | 校長 教頭 | ・PTA総会での学校経営方針の表明、学年便り、学級だよりによる教育方針の説明を行う。 | ・PTA総会で学校経営方針を校長自ら説明し、学校・学年・学級だよりにも明記した。しかし周知率が目標値に届かなかったことから、もっと、学校目標を周知する機会を増やす工夫が必要といえる。 |
| | 教職員の資質向上 | 教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実 | 昨年に続き、今年度も教職員の不祥事ゼロをめざす。 職員研修は年間10回以上とし、研究授業の全員実施と授業研究会での協議内容の質を高める。 | B ・校内研究の提案授業・研究授業を各担任及び校内研究担当で実施することができた。 ・人権・同和教育に関わる研修会として6月に講師招聘の研修会を実施し、更に11月には全人大大会へ多くの職員が参加することができた。 ・教育相談、生徒指導、人権同和教育各部会の連携研修会としてQIに関する研修会を年2回実施することができた。 | 校長 教頭 石橋尚 | ・職員研修では、服務、児童理解、人権・同和教育等様々な実施。通知文を全員に配布。 ・人権並びに道徳を中心とした研修会では講師を招聘し授業論、指導方法、指導技術の向上。 | ・各部会で進んでいた児童理解に関わる研修会を連携研修会として講師招聘で実施することができた。 ・校内研究に関しては、全体授業研究会に講師を招聘し、学び合いを取り入れた巨勢小スタイルがある程度出来上がってきた。 ・校内研究については、研究授業だけではなく、普段の授業力アップにつながる内容としていく必要がある。 ・気になる子に対する個別支援については、校内で支援体制づくりが進んでいるが、気になる子を中心に据えた学級集団づくり(仲間づくり)については、まだ十分研修できていない。 |
| | 危機管理体制の整備 | 児童と教職員の安全と交通事故、生活事故の防止と危険回避能力の育成 | ・児童と教職員の交通事故0を継続する。 ・新型インフルエンザ(強毒性)や不審者など、喫緊の事態における整備体制の確立し、欠席者の前年比10パーセントカットを目指す。 | C ・児童と教職員の交通事故を3月に3件おこしてしまった。 ・週末の安全と生活指導を継続した。 ・病気で保健室を訪れる児童を数を20%減少できた。 | 教頭 稲富 山口 真崎 | ・週末の安全と生活指導を継続・強化する。 ・緊急メールの加入率調査を実施する。 ・安全マップの再作成による危険箇所の把握を行う。 | ・事故を3件起こした事実を払拭できず、まずは来年3月31日まで交通事故0をめざす。 ・児童と教職員・緊急メールの加入率は85%で23年度は90%達成をめざす。 ・安全マップの再作成を実施する。 ・病気による保健室来校者が2.0%減となり、危機の未然防止に効果を上げている。 |
| | 家庭との連携 | ・本年度重点目標の各家庭配布 ・教育講演会等各種行事への参加依頼 | ・学級、学年、学校行事等の丁寧・確実な配布・送信 ・年3回実施される保護者を中心とした組織「見守り隊」参加者数を10%増やす。 ホームページを学期に1度必ず更新する。 | B ・開かれた学校について95%を達成、学校情報が丁寧・確実に配布・送信されたと捉える。 ・ホームページ更新を学期に一度以上確実に発信できた。 | 教頭 教務 各担任 | ・年間計画の中に定期でホームページ更新日を設定。 | ・定期でホームページ更新日を設定したことで教職員一斉に作業を行うことができ、学期に一度以上の更新を行うことができた。 ・各学校行事については、目標数値を達成できたが、肝心の学校目標についての数値が芳しくなかったことから、ホームページを使った学校目標の周知を考えていく。 |
| 教育活動 | 開かれた学校づくり | 教育目標をはじめ、教育活動等学校情報を家庭や地域に積極的に提供し、開かれた学校づくりを昨年度以上に推進 | ・フリー参観デーと地域行事との合同開催を最低1回以上実施する。 | B ・城東校区内一斉清掃活動の実施計画を地域を含めて立てられたことは評価できるが、雨天のために実践できなかった。 ・11月のフリー参観と巨勢文化祭を同日合同開催を行うことができ、地域の方々の好評を得ることができた。 | 教頭 教務 | ・一斉清掃活動を城東校区内合同で行い、地域力を活用する。 ・11月のフリー参観デーと巨勢文化祭を同時に行い、参加率の向上をめざす。 | ・城東校区内一斉清掃活動の実施計画を地域を含めて立てられたことは評価できるが、雨天のために実践できなかった。来年度は是非実施・反省までをめざす。 ・11月のフリー参観と巨勢文化祭を同日合同開催を行うことができ、地域の方々の好評を得ることができた。来年度も同時開催を目指す。 |
| | 学力向上 | ・本年度重点目標の各家庭配布 | 国語力、算数力を向上させ全学年昨年度を上回る結果をめざす。 児童の実態に即した指導方法の工夫改善と少人数TT指導による確かな学力の向上に努める。 時間感覚を身につかせ学習時間を充実させる。 「はげみタイム」の徹底と充実による基礎基本の定着を図る。 | B ・校内研究の教科である算数の授業スタイルについては、学び合いを取り入れた巨勢小スタイルが定着しつつある。 ・TT担当が2名となり、全学年の算数科で少人数やTTによる授業を実施することができ、学力的に厳しい児童への個別支援を行うことができた。またTTや少人数の授業を行う中で、問題提示の場面を工夫したり、コンピュータを活用した授業を行ったりすることができた。 ・「はげみタイム」については、5月より全校で取り組むことができた。 | 教頭 教務 石橋尚 | ・学級の実態に応じた指導方法、教材・教具の開発を通じた学力の定着。 ・指導法改善を重視した職員研修。 ・毎週金曜日朝の「はげみタイム」を全職員で取組 | ・算数については、TT担当が教材・教具等を準備することで、十分とは言えないが若干工夫することができた。 ・複数の教員が授業に入ることで個別支援を行うことができた。 ・「はげみタイム」に全職員で取り組むことができ、少しずつ成果を上げつつある。 ・学習規律が昨年より身についた。 ・算数(全学年CRT実施)、国語(5・6年学習状況調査等)ともに平均値と比べてまだ学力が身につけている状況ではない。 |
| | 心の教育 | ・道徳の時間の授業公開 ・人権集会 | ・年1回保護者参加型の道徳の授業を行う。 ・学期に1度人権集会を行う。 | B ・道徳の授業参観は全クラスで実施できた。生命尊重を価値項目としたクラスは半分程度であった。保護者参加型の授業についても取組つつあるが、十分ではない。 ・人権集会については、各学期実施できた。 | 石橋尚 西川 古川 | ・授業参観日、フリー参観日には命の尊重等を中心とした保護者参加型の道徳の授業を各クラス年1回以上実施。 ・人権集会の保護者紹介 | ・生命尊重については、道徳だけでなく他の領域・教科と関連づけて学習できている学年もある。(1・2年の生活科、3年総合的な学習等) ・保護者参加型の授業については学校の実態を踏まえ、授業内容を工夫しながら取り組んでいく必要がある。 ・人権集会や人権学習の取り組みについて、通信や授業参観時の「なかよしの木」の掲示を通して、保護者に紹介することができた。 |

| | | | | | | | |
|----------------------|---|---|---|--|---------------------------|--|---|
| 健康・体づくり | ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・自分で健康管理ができる子どもの育成 ・外遊びの励行 | ・養護教諭、栄養士と連携し、健康教育、食育の授業を各学年1回以上実践する。 ・適度な運動の楽しさを実感させる。 ・各クラスでの「みんなで遊ぼう」の呼びかけ | B | 毎月、給食だよりを発行し、食の大切さや食べ方などの指導ができた。 ・保健だよりを発行し、健康の大切さや病気の予防について知らせた。 1, 2, 3, 4, 6年生に手洗い指導、心の教育、防煙教育等達成できた。 各クラスで、みんなで遊ぼうを計画し、週に1回以上達成できた。 | 荒木 山口 西川 原 稲富 | ・毎月給食便りを発行し、日々の給食指導により、食の安全や食べ方などの指導ができた。 ・各学年に応じた、食の指導ができた。 ・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理と保健指導。 ・歯みがきと手洗いチェック、週初め健康生活チェックカードの実施 ・昼休みの外遊び等、自分にあった体力づくりを推奨。 | ・毎日の健康観察や歯みがき・手洗いは実施できている。 ・健康教育や保健指導は、1年を通して計画的に実施するよう改善したい。 ・食の教育も1年を通して計画的に実施するよう改善していきたい。 ・昼休みの外遊びは実施できている。 |
| 基本的生活習慣の育成 | ・基本的生活習慣の確立 | ・特に低学年の基本的生活習慣の定着のために「生活点検表」(項目として、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、排泄、着替え、宿題等)を配布し各項目の85%以上達成させた。 | B | ・「生活チェック表」や「清潔・清潔調べ」等によって点検したり、お便りなどで家庭に協力を呼びかけたりした結果、80%以上が達成できた。 | 武藤 城島 古川 原 | ・早寝、早起き、朝ご飯を合い言葉にして指導していることを通知し、家庭の協力を依頼。 ・「生活点検表」の項目について保護者へ協力を求め、保護者の意識の高揚に注力。 | ・「生活チェック表」やお便り、個人懇談での啓発などにより、基本的生活習慣をつけることの大切さを意識づけることができた。 しかし、家庭の協力が得にくい状況の児童もおり、引き続き家庭との連携を図っていく必要がある。 |
| 家庭学習習慣の育成 | ・学習習慣の定着による学力の向上 | ・毎日の家庭学習時間は、低:30分以上、中:45分以上、高:1時間以上を目標にし、70%以上の達成をめざす。 | C | ・4月のPTA時に合わせて、家庭学習の手引きは配布したが、十分啓発できていない。 | 石橋 尚 田平 | ・各学年の家庭学習時間の目安や進め方を通知し、家庭への協力依頼。 ・「生活点検表」にもついて保護者への協力を求め、保護者の意識高揚による家庭学習時間の調査と活用。 | ・年度当初、家庭学習の手引きの見直しを行い、学級PTA時に配布することができた。 ・各担任で宿題等の家庭学習に関する指導は行っているものの、基本的生活習慣が乱れている児童も多く、十分啓発できなかった。 ・全校的な「生活点検表」を実施しなかった。 |
| 読書指導 | ・やさしい心を育てるための「うち読書」等の読書習慣の形成 | ・家庭読書習慣の定着を促す。 ・低学年 年間65冊以上 ・中・高学年 55冊以上 | A | ・朝の読書をする中で1時間目の学習にスムーズに取りかかることができた。 ・やまびこタイムは、保護者の協力で実施し、子どもたちも楽しみにしている。 ・年間の平均貸し出し冊数は、低学年67冊、中高学年83冊で、目標を達成することができた。 | 三栗野 石橋 和 | ・朝の読書タイムの充実、やまびこ会の活動継続依頼と実施協力による読み語りの充実、自分にあった本の探し方、楽しんで読み続けるための図書館指導の充実。 ・家庭での読書週間の啓発や具体的な提案を行い活字に親しませる情報の発信が必要。 ・公民館内の市立図書館分室との情報交換と交流への着手。 | ・朝の読書タイムがすっかり定着し、子どもたちの読書習慣が身についてきた。来年度も読書タイムの時間枠を設定していく。 ・貸し出し冊数の目標達成できたことは大いに評価している。次は、読書する本の室について調査・検討していき、読書の課題をみつける。 |
| 人権・同和教育の推進(いじめ対策を含む) | ・自他の良さや違いを認め合い尊重し合う心の醸成 | ・実践計画書に基づいて、人権・同和教育の3視点を取り入れた授業を必ず実践をする。 ・各学期ごとに人権集会を開催する。 | B | ・児童の実態に合わせた人権集会を実施することができた。 ・全校による「なかよしの木」への取り組みを実施できた。 ・毎月の「月の心」、10月の人権アンケートを実施することができた。 | 石橋 和 石橋 尚 中島 | ・同和教育の8つの視点を取り入れた授業実践。 ・異学年集団の活動(ふれあい、ボランティア等)実践。 ・毎月1日をいじめ・命を考える日とし、旗を昇降口にて、意識を継続。 ・児童にアンケートを実施し思いをつかむ手だてを設定。 ・全校による「なかよしの木」への取組。 ・最初の一言の重要性を全校朝会・学年朝会で指導・紹介 | ・各学期ごとに人権集会を実施することができた。特に夏休みの平和集会と2学期の人権集会は6年生による平和学習の発表の場として、児童主体の集会にすることができた。 ・異学年集団の活動「さわやかタイム」と位置づけ、縦割りによる異学年集団での活動を継続して行ったことで、高学年のリーダー性を育てることができ、そのことが認め合う関係づくりにつながった。 ・10月に実施した人権アンケートを基に、11月の人権問題授業に取り組むことができた。 ・児童同士の言葉遣いは以前より良くなってきたものの、まだ相手を傷つける言葉遣いが多い。 ・自己肯定感が低い児童が多く、そのことが様々なトラブルとなって現れていることが多い。 |
| 環境教育の推進 | ・学校で取り組める環境教育の具現化 | ・「プレーボール宣言」の4項目を実践させ、エコチェックカードのよいクラスを表彰する。 ・紙、電気、水、等のチェック | A | ・ごみ箱を種類ごとに分けることで、意識して分別することができるようになった。 ・毎日エコチェックを実施し、毎月、集会等で表彰させることで委員会の活動も活発になってきた。 | 古川 山口 絹 | ・ごみ箱を種類ごとに分けることで、意識して分別することができるようになった。 ・毎日エコチェックをさせた。 ・毎月委員会で表彰させた。 | ・エコチェックを繰り返し実施し、意識を高揚を図ってきたい。 ・ペットボトルのふたの回収、リングルの回収も続けて、エコやボランティア活動へとつなげていきたい。 |
| 小学校低学年の学習環境の充実 | ・基本的生活習慣や生活習慣の確立 | ・「時と場に応じた言葉づかい」「時間励行」「あいさつ」「掃除」「聞く」「学習準備」の完全習得者を85%以上を目指す。 | B | ・基本的生活習慣や生活習慣についてのルールを掲示したり繰り返し指導したりする中で、少しずつ定着してきた。 | 城島 古川 原 | ・基本的生活習慣、生活習慣の徹底と定着。 ・各項目について発達段階に応じた指導の工夫。 ・幼保小連携による小1入学時の学習・生活習慣に関わるなめらかな接続。 ・PTA総会、学級懇談において、状況の積極的説明を行う。 | ・合い言葉や掲示物を示しながら、繰り返し指導することで、児童の意識が高まってきている。また、友だち同士で声を掛け合う姿も見られるようになった。しかし、個人差が大きくなり、なかなか規範意識が高まらない児童がいる。 |
| 魅力ある学校づくり | ・農業や伝統芸能等の体験による郷土理解 | ・農業に携わったり、伝統文化を大切にしたりしている地域の方との協力、ふれ合いを実体験する機会を設定し、郷土「巨勢」への思いを深める。 | B | ・異学年交流や地域のボランティアの方々とのふれあいを通じて、地域に目を向けることができるようになった。 | 田平 石橋 城島 古川 武藤 前田 原 | ・インフルエンザの影響も考え、5月より早速、米づくり、浮立の経験を味わわせる実践開始。 ・巨勢浮立の練習と地域行事での披露等、出番・役割・承認の確立のために複数の指導者を確保。 | ・様々な人とふれあうことを通じて、地域の人や産業・伝統文化を知ることができた。人材活用をする中で、活動の場や時間の設定等の調整が難しかった。 |
| 市民性を育てる(キャリア教育を含む) | ・郷土、地域の「ひと、もの、こと」の活用 ・公民館との連携協力 | ・近隣の農家へ出かけて農業体験、地域歴史家による巨勢町の認識、さわやかグループと地域の方々との共同によるボランティア活動、巨勢っ子見守り隊との年3回の集団下校等で、地域の「人、もの、こと」への感謝の気持ちを育てる。 | A | ・異学年交流や地域のボランティアの方々とのふれあいを通じて、地域に対する関心を持ち、地域の方に対して感謝の気持ちを持つことができた。 | 武藤 前田 大塚 城島 西川 原 | ・華道や茶道、巨勢浮立、農業体験学習、地場産物の直売、郷土史家による郷土学習等、地域の人材を生かした学習・活動・体験の充実。 ・地域の人材を発掘し、積極的に活用する機会を設定。 | ・クラブ活動や総合的な学習、特別活動において、地域の人材を活かした体験学習をすることができた。しかし、材活用をする中で、活動の場や時間の設定等の調整が難しかった。 |
| 幼・保・小並びに小・中連携 | ・幼稚園や保育園との連携強化 ・城東中学校区での連携強化 | ・幼・保・小連携協議会を年間3回以上行い互いの教育方針、活動内容、園児・児童等の理解を深め合う。 ・小・中連携による相互訪問を年間5回以上開催する。 | A | ・幼・保・小連携については、1年2年5年生において、年間を通して計画的な連携を行うことができた。 | 教頭 大塚 1年担任 6年担任 | ・運動会等行事への招待。 ・次年度入学児童の理解。 ・授業の相互公開と巡回訪問 ・城東校区地域推進教育プロジェクトを組織し、4小中学校で研修や活動を共同で実施。 | ・幼・保・小連携については年間を通じ、3学年の児童と交流をする中で、相互理解を深めることができた。また、次年度の学校での縦割り活動へとつなげることができた。幼稚園・保育園との校時限の違いや天候などで、日程の調整が難しかった。 |

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか」は吟味の余地がある

| | |
|--------|--|
| 6 総合評価 | 総合評価:17項目中A評価が4項目、B評価が9項目、C評価が3項目であり、教育活動に対する総合評価としては、概ね良好であったと捉える。 (学校教育目標)「本気・元気・根気」では、「早寝、早起き、朝ご飯、8時だよ・全員集合」を合い言葉に校長先生をはじめ生活指導員二人も挨拶運動を毎日展開下結果、午前8時までに95%異常の児童が校門を通過し、落ち着いた朝のスタートで生活を始められるようになってきた点、大いに改善が進んだと考える。最後の学校評議委員会の中でも「挨拶がずいぶん良くなってきた」と評価して頂いた。「元気」については、保健室への病気を来室者数が前年度比20%も削減できた点大いに評価している。しかし、教職員と児童併せて3件の事故については、全職員で大いに反省している。毎週金曜日のスキルタイムによる基本的生活習慣の向上では、知識・技能の点で少しずつではあるが点数の改善が見られてきた。何よりも児童自身が毎週金曜日の朝のスキルタイムを習慣化できた点、極めてよい傾向と捉えている。ただ、家庭学習の時間が少ない点が問題点として明らかになっている。この点は、重要課題と捉えている。城東校区地域教育推進プロジェクトの発足・実践による「人・もの・こと」の活用は、去る2月23日城東校区4校、全教職員参加による設立総会開催を実現できた点、大きな一歩であったと考える。これからの、「人・もの・こと」の実践的な活用と見通している。 |
|--------|--|

「できなかった」点について、次年度以降の具体策を検討する
「できなかった」こと自体よりも、改善策を見出せるかが重要である

| | |
|-----------|--|
| 7 来年度の改善策 | 学校像:学校教育が地域並びに過程との連携によってなりたつという基本姿勢に何等ぶれることはなく、来年度も「開かれた学校」と「本気・元気・根気の巨勢魂」を合い言葉に、地域との連携をさらに強化し、保護者との理解・強力をPTA本部の組織再編を切り口とし、図ってきたい。 児童像:「挨拶」はさらに高いレベルを臨み、「丁寧なことばづかい」は、まず教師自身の実践と全校集会での寸劇等による児童の啓発で、地域・保護者の方々の関心を高め、連携、強力を図っていく。そこで、アンケート項目に家庭学習の時間、PTA活動への意識という項目を加え、児童の実態をさらに把握し、課題の解決に当たっていく。 教師像:個別の支援を要する児童に対してその特性をつかみ、健全な学級経営を行っていくとともに、算数・人権同和教育を切り口とし、自尊感情をたかめ他者理解を促し、安心・安全な教室での授業展開ができる教師をめざす。このことで、地域や保護者からの関心と信頼を得られる教師をめざす。 |
|-----------|--|

は共通評価項目、 は独自評価項目